

「情報議員に共有したら」

兵庫県元部長「知事から指示」

兵庫県の斎藤元彦知事を巡る一連の問題で、慎重に扱われるべき内部情報が漏えいされていた。関わったのは知事の側近だった最高幹部。第三者委員会は知事の指示だった可能性にも踏み込んだ。斎藤氏は関与を改めて否定したが、説明責任が問われる事態となっている。

「パソコンからこんなものが出てきました。見てく

ださい」
2024年4月、県議会の会議室で、総務部長だった井ノ本知明氏がある県議

と向き合っていた。井ノ本氏が見せていたのは、元県西播磨県民局長の公用パソコンから見つかった私的情報だった。元局長は斎藤氏

によるパワハラなどの疑惑を文書で告発していた。「こんな人間が作った(告発)文書信用できるわけないやろ」。私的情報を見せられた別の県議も井ノ本氏の発言を覚えていた。

第三者委の報告書では県議への調査結果として、こうした生々しいやりとりが明らかにされた。

報告書では井ノ本氏の動機や目的について、県議らの受け止め方を総括した。

私的情報を暴露することにより、元局長の人格や人間性に疑問を抱かせ、告発文書の信用性を弾劾する。第三者委は県議らのこうした認識について「一定の説得力があると評価できる」としている。

今年3月に報告書を公表

文書告発問題を巡って
兵庫県が設置した第三者委員会の概要

公表日	調査対象	事実認定
5月27日	元総務部長が元局長の公用パソコンに保存されていた私的情報を複数の県議らに漏らしたとされる疑惑	元総務部長が県議3人に元局長の私的情報を漏えいした。知事や副知事から指示を受けた可能性が高い
5月13日	元局長の私的情報とされるデータが政治団体「NHK党」の立花孝志党首らにインターネット上で公開された問題など	公開されたデータは県人事課の保有情報と同一。県職員による漏えいの可能性が高いが、特定できず
3月19日	元局長が文書で告発したパワハラや贈答品の受け取りなど斎藤元彦知事らを巡る七つの疑惑と公益通報としての県の対応の妥当性	10件について知事の発文を公益通報と扱わず、元局長を懲戒処分者保護法に違反

した県議会の調査特別委員会(百条委)も「告発者潰し」と批判。「元局長をおとしめることで、告発文書の信頼性を毀損しようとしたこともうかがわれる」と指摘している。

兵庫県の斎藤元彦知事を巡る一連の問題で、慎重に扱われるべき内部情報が漏えいされていた。関わったのは知事の側近だった最高幹部。第三者委員会は知事の指示だった可能性にも踏み込んだ。斎藤氏は関与を改めて否定したが、説明責任が問われる事態となっている。

2024年3月	県西播磨県民局長が斎藤元彦知事のパワハラなどの疑惑を文で告発。県側が局長の公用パソコンを回収
5月	県が局長を停職3カ月の懲戒処分
7月	局長が死亡
	週刊文春が公用パソコン内の私的情報について総務部長が県議らに見せて回っていると報じる。月に部長は総務部付に
10月	県議会調査特別委員会(百条委)に対し、元総務部長が私的情報の流出について証言を拒否。県議の第三者委員会が調査を開始
11~12月	立花孝志氏らがX(ツイッター)などで元局長の私的情報を発信
12月	複数の県議が元総務部長からの私的情報を伝えられたと百条委に証言
25年5月27日	第三者委が調査結果を公表。県元総務部長を懲戒処分

客観証拠が乏しい中、第三者委は関係者の証言を吟味していく。斎藤氏は「一連の報告はあったと思うが、処理に関して何か指示したことはない」と真っ向から否定した。一方で、知事への説明の場に同席した県幹部のほか、片山安孝副知事(当時)に確認したところ、井ノ本氏とはほぼ一致する説明を得られたことが決め手となった。

第三者委は導いた結論をこうまとめた。「知事や副知事の指示により、議会への根回しの趣旨で漏えいした可能性が高い」

弁護士で第三者委の工藤涼二委員長はこの日開いた記者会見で、漏えいに斎藤氏に関わった可能性に触れたことについて「社会的なことについて『社会的な』というインパクトがあるから分らないわけではなく、一つの大きな決断だった」と思っている。と振り返った。栗田亨、稲生陽山田麻未